

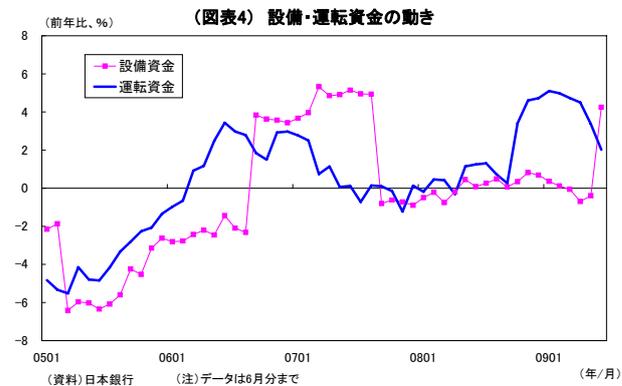
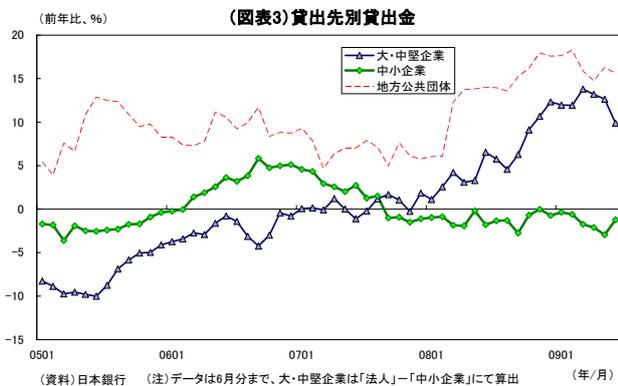
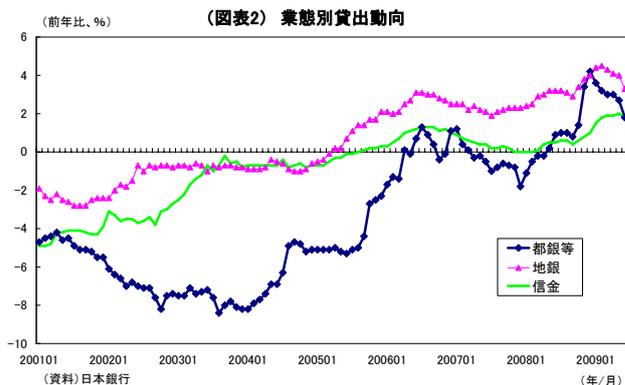
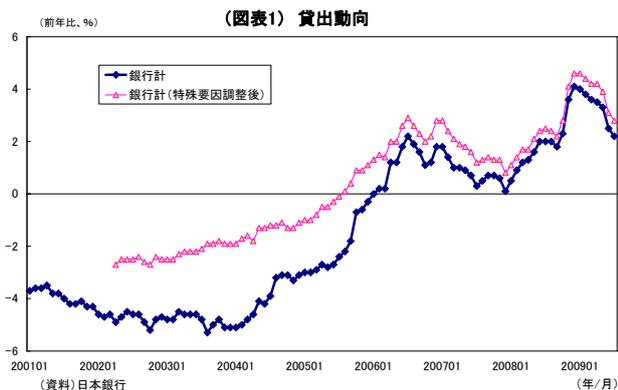
経済・金融 フラッシュ

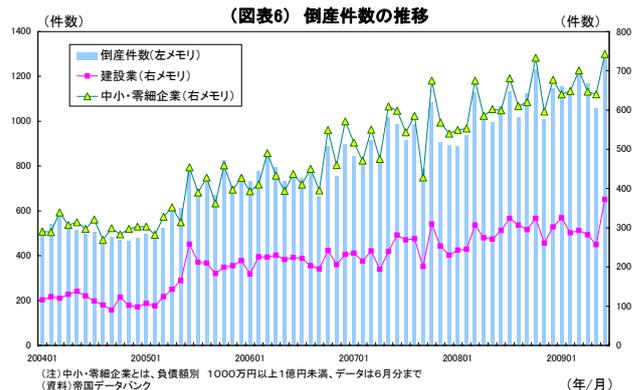
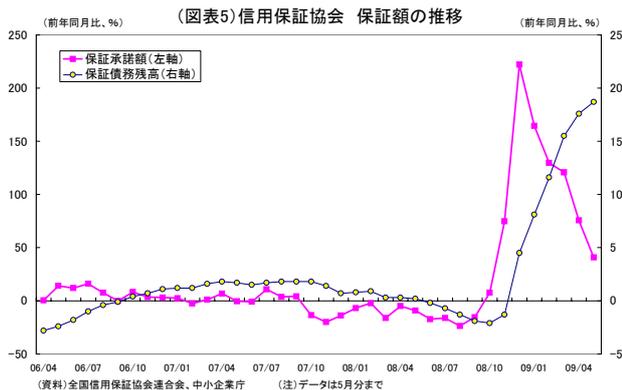
7月マネー動向： 貸出伸び率はほぼリーマン・ショック前の水準へ

経済調査部門 副主任研究員 上野 剛志
TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

1. 貸出動向：2008年9月以来の低い伸び

日銀の貸出・資金吸収動向等によると、7月の銀行総貸出(平残)の伸び率は前年比 2.2%と7ヶ月連続で伸び率が縮小し、2008年9月以来の低い伸びとなった。景気低迷に伴って資金需要が低迷しているほか、CP・社債市場の機能が回復しており、貸出需要が頭打ちになってきている。業態別では特にリーマン・ショック以降に貸出が急増した都銀の低下が顕著であり、大企業向け貸出とほぼ同様の動きを示している。(図表1~4)

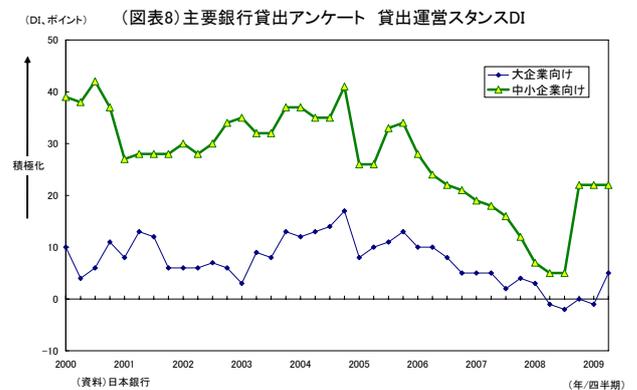
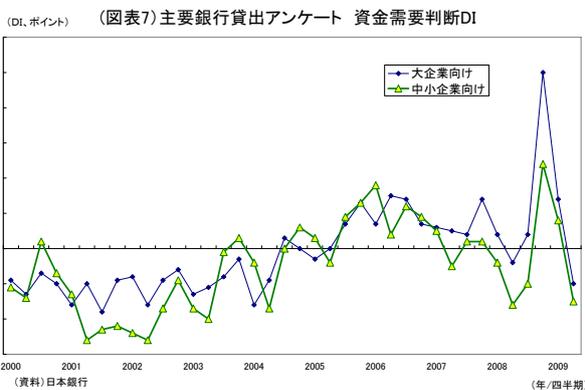




一方、中小企業向け貸出については長期にわたり前年比マイナス圏での推移が続いている。政府による信用保証制度の保証債務残高は積み上がっており、また中小の倒産件数も高止まりしていることから、中小企業の資金繰りは引き続き厳しい状況にあり、大企業との間での企業金融の2極化状態は依然解消していないものとみられる。(図表5, 6)

2. 主要銀行貸出動向アンケート調査：貸し手側から見た資金需要の低下は鮮明に

主要銀行貸出動向アンケート調査によれば、銀行側から見た2009年4-6月期の企業の資金需要DIは大企業▲10(前期比24低下)、中小企業▲15(同23低下)とともに2期連続で低下し、マイナス圏となった。リーマン・ショック後の金融危機で急激に高まった資金需要の解消が鮮明になった形だが、要因としては、大企業の「直接調達へのシフト」に対し、中小企業では「売上減少に伴う運転資金の減少」が顕著であり、ここでも中小企業の厳しい状況が垣間見える。なお、銀行の貸出運営スタンスDIは今回大企業、中小企業ともにDIがプラスとなり、銀行の積極貸出姿勢を示している。(図表7,8)

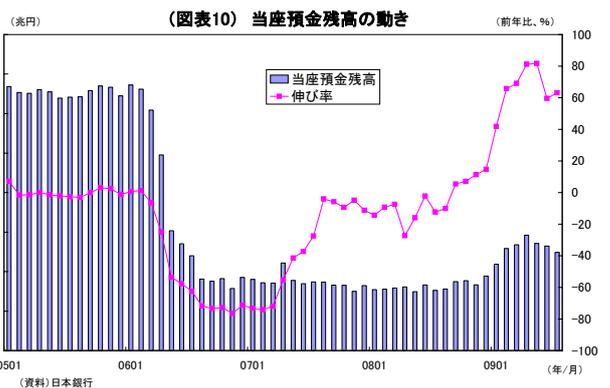
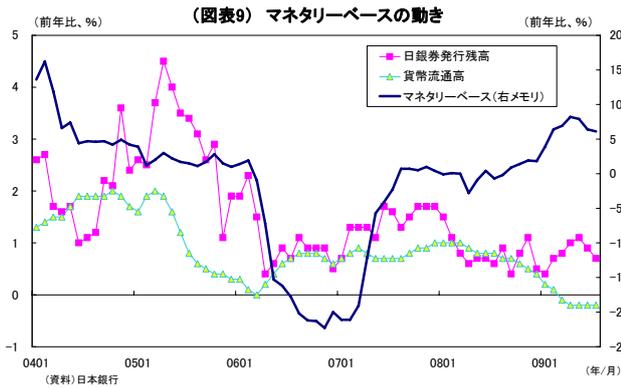


3. マネタリーベース：11ヶ月連続の前年比プラス

7月のマネタリーベースは、前年同月比6.1%増と3ヶ月連続で増加率が低下したが、11ヶ月連続で前年の水準を上回り、高い伸びが続いている。(図表9)

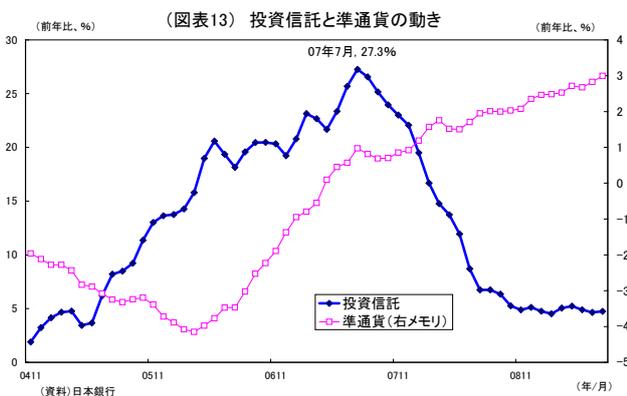
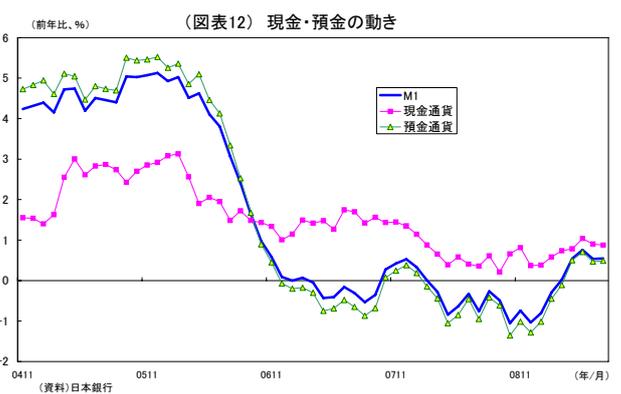
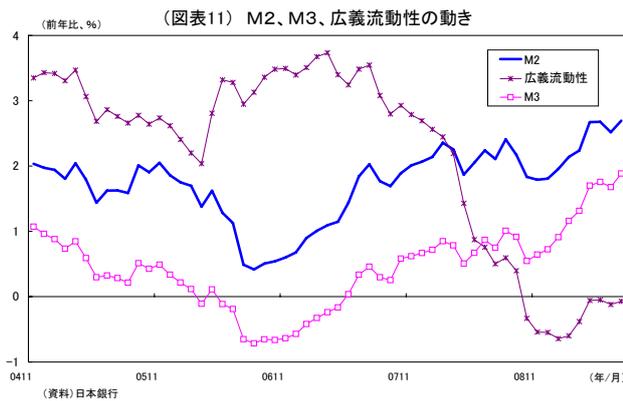
日銀による短期市場への潤沢な資金供給が続いており、日銀当座預金残高が前年比63.2%増と大幅なプラスを維持していることが要因である。(図表10)

日銀は未だ出口戦略を模索する段階にないとみられることから、当面はマネタリーベースの前年比プラス継続が見込まれる。



4. マネーストック: マネーの伸びは再び拡大、安全資産への資金流入が続く

通貨供給量の代表的指標である7月のM2(現金、国内銀行などの預金)平均残高は前年比2.7%増、M3(M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む)は同1.9%増と、8ヶ月ぶりに伸びが縮小した前月から再び勢いが拡大した(図表11)。リスク回避目的による安全資産への資金流入の動きが続いており、定期預金などの準通貨の伸びが拡大を続けている一方、投信の伸び率低迷や外債等の減少からM3にこれらを含めた広義流動性はゼロ近辺での推移が続いている(図表12,13)。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。